

都市公園と河川環境の一体化

●河川沿いに自然を復元「荒川ビオトープ」

建設省関東地方建設局荒川上流工事事務所は、地域の環境NGOの協力を得て、埼玉県北本市と川島町にまたがる荒川河川敷に、復元・創出型としては大規模なビオトープ約30haをつくり、豊かな自然を取り戻しつつあります。この地区では近年開発が進み自然の質が落ち、平野部での豊かな自然のしるしであるサシバが繁殖しなくなりました。そこで荒川沿いに自然を復元・創出し、隣接する北本自然観察公園33haとあわせて、地域の拠点となるまとまりをもった自然のかたまりがつけられました。

造成前 豊かな自然を復元するために農地をビオトープとして整備することになった。



造成中 地面を掘り込むことによってワンドなどの多様な水辺環境も復元している。



造成直後 造成後は人の手を入れず、自然の再生力に任せている。



整備後まもなく、タチヤナギやオノエヤナギ、アカメヤナギなどのヤナギ類が自然に生えてきた。



●目標とした生きもの

自然を復元するこのビオトープづくりに関しては、サシバが生息できることが目標にされました。サシバは、平野部の生態系ピラミッドの頂点に位置する生きもので、繁殖していくためには、良好な自然が広く確保されている必要があります。



造成2年後。植物が定着し始め、いろいろな生きものが餌場として利用するなど、多様で豊かな自然が復元されつつある。

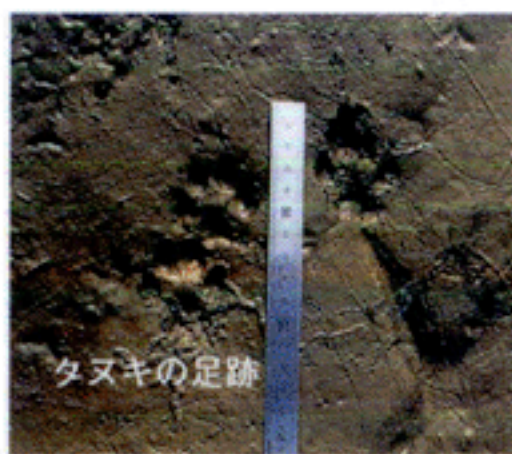


●生きものたちが戻った

ビオトープ整備後のモニタリング調査では、植物のタコノアシ(絶滅危惧Ⅱ類)を始め、キツネ、タヌキ、オオタカ(絶滅危惧Ⅱ類)、ノスリ、メダカ、ナマズなど、多くの生きものたちがビオトープ内で生育・生息したり、餌場として利用していることが確認されています。



造成後には、平野部の代表的な高次消費者であるキツネがやってくるようになり、巣穴もつくられている。



キツネだけでなく、タヌキも餌場などとして荒川ビオトープを利用している。



植生が復元するに伴い、タコノアシなどの希少な植物も見つかっている。

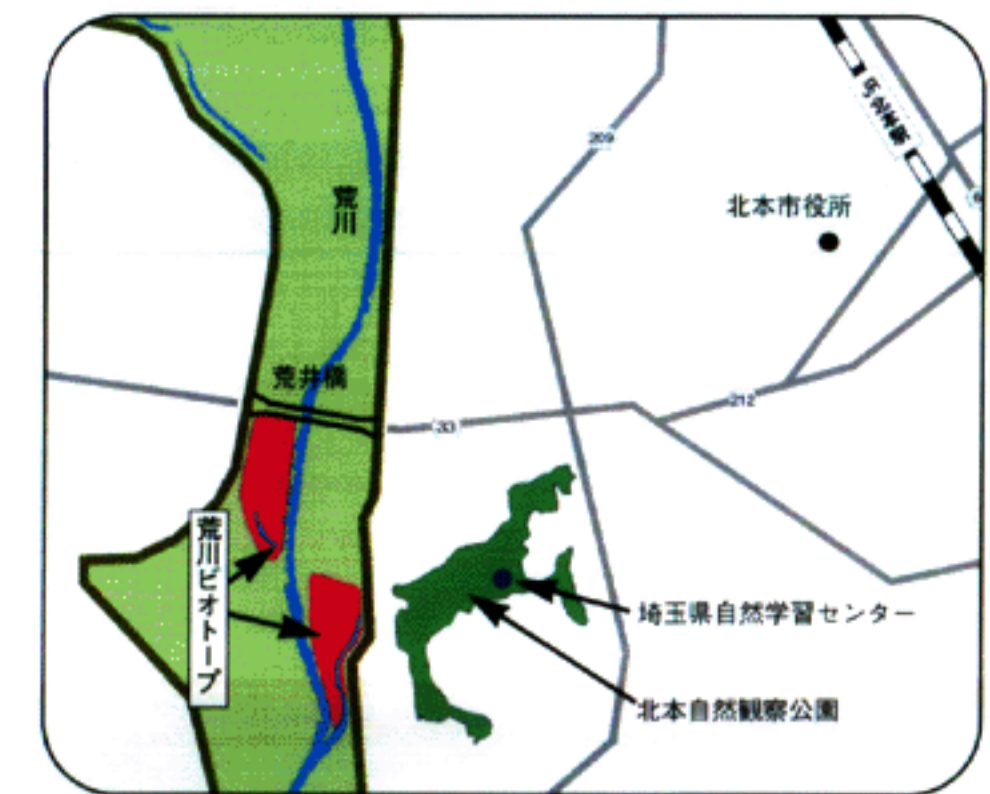
平成9年度のモニタリング調査で確認された 国や埼玉県レベルでの希少動植物

- <植物> ミゾコウジュ、カワヂシャ、タコノアシ、イヌハギ
- <哺乳類> ホンドキツネ、ホンドタヌキ、ホンドカヤネズミ、
- <鳥類> オオタカ、ノスリ、ハイタカ、タゲリ、カワセミ、ウズラ
- <爬虫類> ジムグリ
- <水生動物> メダカ、ナマズ、ジュズカケハゼ
- <昆虫類> ヤマトシリアゲ

●自然の回復は自然にまかせる

ビオトープの整備にあたっては、生きものがすみやすい様々な環境を整えるために、水路やワンドの造成をはじめとした基盤造成を行いました。そして池沼や湿地、草原や凸凹地などを配置し、荒川中下流域の代表的な生きものが暮らせるように工夫されました。しかし基盤造成の後には基本的に人手は加えず、立ち入りも禁止し、自然が自らの再生力で回復するにまかせています。

<荒川ビオトープ位置図>



整備途中の荒川ビオトープと隣接する北本自然観察公園



北本自然観察公園

自然観察公園と一体となるビオトープを整備し、埼玉県の平野部の自然の拠点づくりをめざしている。都市近郊に保全されたまとまった自然地域は、自然と都市を結ぶ生物の生息空間のネットワークの中継拠点として、また、環境教育の場としての意義をもっている。